

所長就任にあたって

柳澤 慧二

このたび、思いがけない事情から、鶴見大学学長職を引受けることになり、研究所の規程から所長を兼ねることになりました。高崎前学長のように輝かしい仏教学における業績をあげられた方の後をつぐことは、とても考えられないことですが、せめて所員の方々の足を引っぱることのないように心掛けていきたいと思えます。

私の父は曹洞宗の熱心な信者であったので、子供の頃から仏さまは身近な存在でした。父のすすめもあり、学生時代から禅の修行をはじめましたが、これはご縁に恵まれて臨済系の居士禅でした。しかし、曹洞宗とのかかわりは、大学院で指導を受けた勝木保次先生の先生が戦前東大教授、文部大臣などをつとめられ、「正法眼蔵釈意」などの書物を残された橋田邦彦先生であったという縁につながります。一昨年、勝木先生の伝記を書く機会があり、それを高崎先生に進呈したところ、先生から「橋田先生の孫弟子ですね」といわれて、そのようなご縁もあったかと思いました。

仏教ではなくて生理学ではまさにそのとおりなのですが、橋田先生のご著書などを読んで仏教についても学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。